



# 小さな成功を見つけて褒める (小学校)

## ～ADHDペアレント・トレーニング 親と教師の学習会～

校内委員会やSRECを中心とした校内支援体制が整ってくるにつれて、医療機関を受診し、診断を受ける児童が校内に複数見られるようになってきました。しかし、診断の有無が支援のゴールでなく、そこからが真のスタートであると考えます。これは、ADHDのある子どもを持つ複数の保護者と校内の職員が悩みを共有し、家庭や学校での支援に生かすために実践した『小さな学習会』の事例です。

### ●SRECが医療機関のスーパーバイズを受け、学習会への参加を呼びかける



保護者は、「誰が来るのか不安だけど、やってみたい」「難しそうだけど、本当にできるだろうか」「同じADHDとはいえ、子ども一人一人個性が違うのに、一緒に学習が進められるのかしら」等、様々な不安をもちながらも学習会に参加しました。

#### 【ペアレント・トレーニング学習会の始まり】

##### ◆参加者

ADHDのある子どもを持つ保護者  
担任

(インストラクター : SREC)

◆回数 全9回 (2回/月)

◆時間 1時間半～2時間

1 『ペアレント・トレーニング学習会』の目的  
ADHDのある子どもの行動を理解し、効果的な対応法を学び、話し合い、練習して、よりよい親子関係づくりと子どもの適応行動の増加を目指します。

#### 2 進め方

毎回テーマを決めて学習・話し合い・練習を行い、宿題として、自宅でも練習します。参加メンバー同士で相談し合い、お互いに高め合っていくサポート効果も期待できます。学習会は、隔週1時間半～2時間を原則として、段階的に行います。

毎回のセッションの最初に前回の宿題のふりかえりを行い、達成度を深めて、次のステップに進んでいく予定です。

#### 3 参加人数 4～5名

このプログラムは、個別相談でも対応できますが、グループにすることで

- ① 宿題の報告などの体験を共有できる
- ② お互いにサポートし合えるというメリットがあります。

反対に、大人数になると1回のセッションで発言できない参加者も出てくるのが予想されるので、上記のような人数を設定しました。(後略)

### ●学習会のスタート

学校職員がインストラクターになり、保護者だけでなく担任も一緒に学習会に参加するというスタイルはあまり例を見ないようですが、みんなが参加しやすいようにと学校長の了解と全職員のバックアップのもとで、勤務時間内に学習会を開始することができました。その間、子どもたちは「児童館」で預かっていただけたので、校内の一室を使って安心して学習会に参加することができました。

## ポイント1 ニーズがあったときに、始めるチャンス！

- ・大切なのは「やってみようという意欲」だと思いました。勉強不足で自信がないとしりごみせず、専門家に相談しながら、参加者と共に学ぼうという気持ちでチャレンジしてみました。始めてしまえばこんなふうにやればいいんだということがわかり、意外なほどスムーズに進めることができました。

## ポイント2 自分たちの変化が実感できる！（資料1）

- ・ウォーミングアップを兼ねて、始めに宿題の報告を聞き合いました。
- ・宿題は決して楽ではないけれど、続けるうちに学習会参加への自覚も育ち、確実に子どもたちへのかかわり方がよい方に変化してくるのを自分たちで実感できるようになりました。

褒めることを宿題にされたら、わが子の「よいところ」が見つかるようになったわ。

〇〇さんはこんなふう  
にやってみたのね。

毎回の宿題は大変だけど、  
みんなの報告が楽しみ。



子どもが、どう褒めたら  
喜ぶかわかってきたわ。

〇〇さんも同じだっ  
たのね。

## ポイント3 押し付けや教示のし過ぎに注意！

- ・参加者同士の話し合いとロールプレイを主にして行います。
- ・互いの悩みや思いを共有し楽しみながら学習していくことが、成功の秘訣だと思います。
- ・毎回最も時間をかけ、盛り上がったのが宿題の報告でした。参加者の努力や実践そのものが貴重な教材であり、孤軍奮闘してきた保護者に高いサポート効果が望めました。

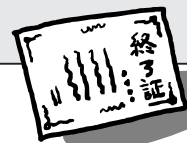


## ポイント4 茶話会形式で和やかな雰囲気づくり！

- ・おいしいものを前にすると、自然と笑顔が広がり心も開放されます。お茶菓子等を互いに持ち寄るやり方でもいいですが、参加費を徴収することで、責任感や意欲が増すこともあります。
- ・参加者間で話し合っ決めて決めるのがよいと思います。

## ポイント5

「終了証」を手渡し  
互いの努力を讃え  
合う



## ポイント6 担任の参加で、保護者にも安心感！

- ・保護者・担任・相談担当者が共に学び合うことで、子どもの問題や目標を共有できる、子どもを見るポイントがつかみやすくなる等の利点もありました。また、保護者の悩みや願いを受けてSRE Cがその解決のための具体的な支援方法（資料2）を職員会で提案するなど、迅速でより効果的な対応をすることもできました。

## 事例から学ぶ

インストラクターをSRE Cが担当し担任も参加することで、個別の教育相談の継続や、よりきめ細かな支援体制づくりにつなげることができます。参加者同士が子どものよき支援者として何でも話し合えるような関係になれるかがポイントです。

また、プログラム終了後も参加者が定期的に集まって話し合えるようなフォローアップの体制をつくっておくことにより、タイムリーな支援を継続できるよさもあります。

# ペアレント・トレーニング

【プログラムの進め方と内容】(例)

回数	内 容	宿題と配付資料 (★)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自己紹介</li> <li>◆「私 困ってます」発表会</li> <li>◆子どもの行動を3つのタイプに分ける               <ul style="list-style-type: none"> <li>・好ましい行動 (増やしたい行動)</li> <li>・好ましくない行動 (減らしたい行動)</li> <li>・許しがたい行動 (なくしたい行動)</li> </ul> </li> </ul>	★行動リスト (例) ①「行動観察表」事前に配布 ②子どもの行動を見て褒めてみよう ③子どもの行動を3つのタイプに分けよう
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆親子タイム (スペシャルタイム)</li> <li>◆上手な褒め方 (ロールプレイ)</li> </ul>	★親子タイム ★親子タイムシート
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆肯定的な注目 褒める (好ましい行動を増やす)</li> <li>◆対応テストA</li> </ul>	★対応テストA ④親子タイムを楽しもう
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆上手な無視の仕方 (好ましくない行動を減らす)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・上手な褒め方のコツ</li> <li>・無視の仕方のコツ</li> <li>・無視が有効でない行動</li> </ul> </li> <li>◆ロールプレイ</li> </ul> <子どもにじゃまされずにあなたの用事をするには>	★行動リストでみる連続性 ⑤無視した行動—どう無視したか—その後どうなったか
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子どもが従いやすい指示の出し方 (CCQ)               <ul style="list-style-type: none"> <li>穏やかに (Calm) 近づいて (Close)</li> <li>落ち着いた声で (Quiet)</li> </ul> </li> <li>◆ロールプレイ</li> </ul>	★ロールプレysinナリオ ⑥指示—子どもの反応—次にどうしたか
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子どもの協力を引き出すために               <ul style="list-style-type: none"> <li>「CCQで指示」 「無視と褒める」</li> <li>「予告」 「選択」</li> <li>「○○したら●●できるという取り決めをする」</li> </ul> </li> <li>◆制限を設ける               <ul style="list-style-type: none"> <li>・短時間の罰 (セルフコントロールを教える)</li> <li>・リミットセッティング (限界設定)</li> <li>・タイムアウト (警告してから)</li> </ul> </li> <li>◆ロールプレイ</li> </ul>	★指示を出してから制限を与えるまでの流れ ★ロールプレysinナリオ ⑦リミットセッティング
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆トークンシステム</li> </ul> 試験的なトークン表を作ってみよう	★トークンポイント表 (資料3) ★ポイントシステムの流れ ⑧試験的トークン表の実施
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校との連携</li> <li>◆振り返り⇒「対応テスト」</li> </ul>	★学校連絡シート ⑨トークン表の継続
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆全体のまとめとこれからのこと ◆「終了証」授与</li> </ul>	

キーワードは

1 行動療法

2 親子相互関係

3 サポート

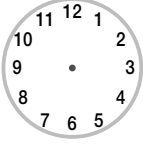
参考資料 『AD/HDのペアレント・トレーニングガイドブック』 じほう



# 『行ってきますカード』

一斉指導の場面で集中の持続が難しかったり、パニックになりかけたりしたときなどに、職員間で連絡し合って同一歩調で指導に当たることができるようにと、保護者の願いを受け SREC が職員会議で提案したものです。

なまえ ( ) ( ) 月 ( ) 日 ( )

行き先(いきさき) (担任から)	活動の様子 ( ) 先生から
時間(じかん) いま 今【 】時【 】分 帰ってくる時間は【 】時【 】分	 行ってきます <input type="checkbox"/> おかえりなさい <input type="checkbox"/>

<使い方(例)>

- 教室以外の場所で学習する場合は、行き先と帰る時間を相談しながら書き込む。
- 「行ってきます」の欄に担任のサインをして児童に持たせる。
- 教室に帰る前には別室での活動の内容や様子を、一緒に過ごした先生から一言書き添えてもらう。
- カードを受け取った担任は、「お帰りなさい」の欄にシール(サイン)をはる。  
\*送り手の担任は、可能な限り児童に課題を与えて送り出すことが望ましい。課題は簡単なものでかまわないので、児童と約束をした上で送り出し、迎えるときに課題ができていれば褒める。(課題=褒めるためのツールと考えます)  
\*ただし、安易に退室を認めることは危険です。「○ちゃんだから特別」とか「しかたがない」とならないためにも理由付けが大切です。



# 『トークンポイント表(例)』

がんばれポイントゲッター ～がんばってポイントをためよう！～

グリーンカード +1P	イエローカード -1P	レッドカード -3P
・英語教室でうろろしないで勉強できた。 ・ゲームをやめる時間を守れた。 ・その他、お母さんがえらいとおもった時	・ゲーム/パソコン/本を横取りしようとした。 ・ゲームで興奮して走ったり騒いだりして、注意されてもやめなかった。	・たたいたり蹴ったり押したりした。 ・うそをついたり人のせいにした。

◆毎日チェックすること(チェック5個で1ポイントゲット)

チェック項目 / 月日	ポイント
1 前日の夜9:45までにねた。	
2 朝6:45までに起きた。	
3 朝脱いだパジャマを片付けた。	
4 朝、歯磨き、顔洗いができた。	
5 学校から帰ってすぐ着替えと片づけができた。	
6 夕方5時までに宿題ができた。	
7 夜8:30までに時間割をそろえた。	
グリーンカード	
イエローカード	
レッドカード	
1日の合計ポイント	

**<ポイントシステムの流れ> (例)**

- 子どもに身につけてほしい行動を(5つぐらい)決める。  
ぜひ身につけてほしい行動(ターゲット行動)・・・1つ  
ちょっとがんばればできそうな行動・・・3つ  
ほとんどできている行動(ダメー)・・・1つ
- 1週間ほど子どもに内緒で行動を記録してみる。
- 子どもと相談する。(ポイントシステムの説明とご褒美の決めだし)
- 実行する。(表を見えるところには)できたときには○(シールでもOK)できないときは空欄のまま(×はつけない)
- ポイントシステムのやめ方  
良い行動が身に付いたらやめていくことも考えましょう。  
良い行動が減り始めたら トークン表を復活させる。(その繰り返し)

10ポイント・・・ゲーム30分延長券	30ポイント・・・好きな本	50ポイント・・・ハンバーガーセット
100ポイント・・・○○円以内の好きなおもちゃ	300ポイント・・・好きなゲームソフト	500ポイント・・・旅行(家族と相談)





# 1年間の見通しをもって保護者と連携(小学校)

## ～三者による連携体制～

子どもたちの生活の場は、大きく分けると家庭と学校になります。通常の場合、直接の支援は保護者と学級担任が行いますが、自律学級に在籍した場合は、保護者—自律学級担任—原学級担任の連携が不可欠となります。1年間を見通し、三者での懇談を継続的に行うことで、適時に適切な支援ができるようになります。

本事例では、「個別の指導計画」（以下A表）と短期の指導計画（以下B表）の作成、見返しを懇談の要にして、1年間取り組んでいます。そのあらましについて紹介します。

### ● 1年間のあらまし（前期：4月～9月 後期：10月～3月） 担任者会

月	行事等	保護者	自律学級担任	原学級担任
4月	全体懇談 (参観日) 家庭訪問	<div style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;">「個別の指導計画」や年間の連携について、保護者と共通理解を図る。</div> 基礎資料を作成する。 (生育歴 通院歴 よさ 興味関心 願い等)		
5月末	個別相談 1	<div style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;">三者で児童の実態、支援上の配慮点等について情報交換し、1年間の目標、前期の目標、支援の方法などについて共通理解を図る。</div>		
6月				
7月	(通知票)			B表の内容に沿って、支援の経過を保護者に連絡する。
8月		通知票に保護者の支援の様子を記入する。		通知票を基に、前期の様子を見返して、後期B表の原案を作成する。
9月末	個別相談 2	<div style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;">三者で前期の見返しをし、後期の目標、支援の方法などについて、共通理解を図るとともに、後期B表を作成する。</div>		
10月				
11月末				後期B表にそって、通知票を作成する。
12月	個別相談 3 (通知票)	<div style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;">通知票にそって、三者で後期の支援経過について評価し、後期目標の修正や支援方法についての共通理解を図る。</div>		
1月				
2月末	個別相談 4	<div style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;">三者で後期の生活や1年間の様子を振り返り、可能性の芽や支援上最も大切にしたい内容等をまとめて、次年度に引き継ぐ。</div>		
3月	(通知票)			後期B表、1年間の目標と懇談の内容等を基に、通知票を作成する。

4月、自律学級担任と原学級担任とで担任者会を行いました。保護者とは参観日の授業参観後に個別相談を行って、「個別の指導計画」A・B表を作成する目的、その内容、そして1年間を通じてどのように扱うかについて説明し、三者で共通理解を図りました。

1年間を通して大切にしたのは、保護者、自律学級、原学級それぞれが「可能性の芽」を伸ばしていくという支援の立場と三者それぞれの支援の役割です。そしてA・B表の作成や活用を通して情報交換をし、子どもの理解や支援方法について深めていきました。

ここでは、短期の指導計画B表について紹介します（A表については、「特殊教育教育課程学習指導手引書」を参照してください）。

**前 期**                      **個別の指導計画B表**                      **年 組 名 前**

<b>1年間の目標</b>	1 1日、1週間の見通しをもって生活できるようになる。 2 国語 ひらがなの五十音を覚え、身近な物の名前の読み書きができるようになる。 算数 10までの数唱が正しくでき、具体物の数を数えることができるようになる。 3 安心してできる生活の場や活動を広げていく。
---------------	---

前期（4～9月）の計画

目 標	具体目標（各生活の場で） ①家庭 ②自律学級 ③原学級 ④全体	具体的な支援の方法とその経過
1	①朝起きてから、学校へ行くまでに行うことがわかり、自分で行動できる。	・毎日、朝の生活リズムをできるだけ一定にし、分かりやすい生活の流れをつくっていく。
2		保護者から
	①②5までの数を具体物と対応させて数えることができる。	・数唱の学習を続けながら、給食や家庭での生活場面で実際に数える場面をつくっていく。
3		保護者から
	②③集会活動の中で、集団の動きに合わせて行動できる。	・短時間で、動きが比較的単純な朝の集会活動を利用して、まず一緒にいることに慣れていく。
		保護者から
	その他の生活の様子から	具体目標以外の様子を通知票作成時に記入するようにしました。

「1年間の目標」に合わせ、各支援の場での具体目標を設定しました。

・作成のときは、支援の方法を中心に記入しました。  
 ・通知票はこの様式を基に、支援の経過等を記入

年間を通じて4回の個別相談を行いました。内容は、前後期の「個別の指導計画(短期)」の作成やその評価です。三者がそれぞれ具体目標をもち、また支援してきているため懇談会の内容は焦点化し、次の具体目標や支援の方法について三者で明確にすることができました。保護者からも、大変好評でした。

**事例から学ぶ**

A表、B表の作成やその評価を、三者で顔をつきあわせて行うことによって、支援の当事者として自分がすべきことが明確になったり、主体的に情報交換をするようにもなったりします。結果として、三者の連携がいっそう強くなっていきます。

また、三者が共通理解し、実践を積み重ねていくためには、「いつ、どこで、誰が、何を、どのように、いつまで支援するのか」、という内容が明確になっていることが大切です。



# 保護者の協力を得るための学級懇談会(小学校)

～LD・ADHD児等への支援を保護者と共に行う～

LD・ADHD児等を支援していくためには、クラスの子どもたちや保護者が、その子について理解していることが大切です。保護者の理解があると、ちょっとしたトラブルが起きても寛容に受け止めてくれたり、学校以外でも同一步調で支援してくれたりするのではないかと考えました。そこで学級懇談会の時間を利用して、学級に在籍しているお子さんについて保護者の方々に理解してもらうように試みました。


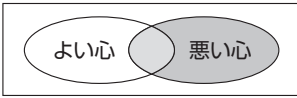
## ●フミヤさんについての苦情

クラスの保護者からは、フミヤさんについての苦情がたびたび寄せられました。特に、保育園で一緒だった保護者の中には、フミヤさんの行動に対して不満をもっている方もおられました。また、その思いは、「(フミヤさんの)保護者は何をやっているんだ。」という思いも生み出していました。そこで、フミヤさんについてきちんと学級懇談会の場で取り上げ、クラスの保護者の皆さんに正しく理解していただくことが必要ではないかと考えていました。

これまで、そういったことをフミヤさんの保護者にお伝えしてきましたが、なかなか納得していただけず、実現しませんでした。しかし、フミヤさんの様子が以前よりも落ち着いてくるに従い、次第に担任に対して信頼を寄せてくれるようになりました。「フミヤさんをさらに支援していくためには、クラスの友だち、そしてその保護者の皆さんに協力していただくことが大切です」と根気よく時間をかけて話し合いを重ねた結果、フミヤさんを担任して1年半後ようやく理解を得ることができました。

## ●学級懇談会の様子

当日話したい内容を下記のようにまとめ、担任がフミヤさんについての話をした後、お母さんから話をさせていただくことにしました。

<p>○年△組学級懇談会</p>  <p>○○小学校□年△組 ○年□月△日</p> <p>1</p>	<p>クラスの中でのフミヤさん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても明るくて人なつこい。</li> <li>・面白いことを言ってみなを楽しませてくれる。</li> <li>・自分から進んでお手伝いをしてくれることがある。</li> <li>・友だちに優しいところがある。</li> </ul> <p>2</p>	<p>二つの心の話</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな人の心の中にも二つの心がある。</li> <li>・「(悪い心を)どうしても止められないんだ」というフミヤさんの気持ち。</li> </ul> <p>3</p>
<p>フミヤさんが苦手なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの気持ちを考えることが苦手。</li> <li>・カッとなると自分の気持ちを抑えられなくて、悪口を言ったり、暴力をしてみたりする。</li> <li>・「ダメ」といわれても自分のやりたいことを何度も主張する。</li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「よい心」がうまく働かず、自分の気持ちを抑えられないときがある。</li> </ul> <p>4</p>	<p>「よい心」を応援するためには</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの子どもたちの力が不可欠です。</li> <li>・お家の皆様のご協力、学校、家庭、地域で連携して支えていくことが可能です。</li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フミヤさんを特別扱いしているのではなく、フミヤさんの課題を克服するためには、皆様のお力をお借りする必要があります。</li> </ul> <p>5</p>	<p>ご協力いただきたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いけないことをしたときや自分に都合のよいことばかり言っているときにはハッキリと「ダメ」と言ってください。</li> <li>・言うことを聞かないときには「お母さんにお話するね」「担任の先生に聞いてもらおうか」</li> <li>・気になることがあったら、フミヤさんのお母さんや担任までご連絡ください。</li> </ul> <p>6</p>

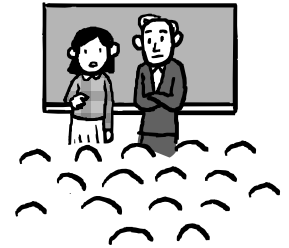
フミヤさんのお母さんは、「いつもご迷惑をおかけして、本当にすみません」と言った後は、涙で話ができなくなってしまいました。学級懇談会の後、多くの保護者の方がフミヤさんのお母さんの周りに集まり、「心配なことがあるならもっと相談してね」「もっと学級懇談会にも出てきてね」など、フミヤさんのお母さんに温かい声をかけてくださっていました。

#### ○フミヤさんのお母さんの感想

「自分ももっと皆さんに嫌われていると思っていました。お話ししてよかったです。優しい声をかけていただけてうれしかったです」

### ●学級懇談会で話すときに配慮したこと

- ・担任からだけでなく、フミヤさんのお母さんにも話をしていただき、お母さんの切ない思いを直接伝えていただくようにしました。
- ・障害名だけが一人歩きしないように、このケースでは障害名は伏せ、フミヤさんについての具体的な話、また、どうしてそういう行動になってしまうかなど、フミヤさんに寄り添った話し方を心がけました。また、子育ての問題ではないことを合わせて伝えました。
- ・フミヤさんが遊びにいったときにトラブルが起きた場合には、どのように対応したらよいか同一歩調をとるようにお願いしました。
- ・懇談会を欠席された方については、伝えたいことをまとめた通信を封筒に入れ、子どもの目にふれないようにして様子を伝えました。



### ●保護者の方の反応

- ・フミヤさんのお母さんの気持ちを子育ての悩みを抱える仲間として共感的に受け止めてくださいました。
- ・他のクラスにいるLD・ADHD児等の保護者に、「クラスで話題にしてもらったら」と話しかけてくださる方がいました。
- ・フミヤさんのよい所を連絡帳で担任に知らせてくださる方がいました。
- ・「子どもにどのようにフミヤさんのことを話したらよいかわからない」など、新たに生まれた疑問を投げかけてくださる方がいました。

### ●今後の展開

学級懇談会で話題になったことは、フミヤさんを支援していく上で、新たな一歩を踏み出したにすぎません。さらにフミヤさんの様子について保護者全体に広めていく必要があると考えています。

### 事例から学ぶ

LD・ADHD児等を支援していくには、学級担任がクラスの友だちやその保護者の理解と協力が得られるように工夫することが大切です。親はだれでも子育ての大変さを知っています。きちんと情報を伝えることで保護者の共感を得、支援に協力していただくことが可能となります。そのためには、学級担任（あるいは学校）は、普段から保護者との信頼関係を培っておくことが必要です。



# やってみよう,保護者学習会(小学校)

～全校の保護者を対象にした学習会の開催～

支援が必要な子どもの保護者に、障害についてもう少し理解してほしいと考えていました。「よし、保護者の学習会を開いてみよう」と決心はしたものの、どうやったらいいのか悩んでいましたが、何もしなければ何も始まらない、できることから始めようと思い直し、取り組んだ事例です。



SRECオノ先生

ユウジさん（ADHD児）やナミさん（LD児）のお母さんにもう少し障害について理解していただきたいのです。学習会を計画して誘ってみようと思うのですが…



校長先生

それならそのお家の方だけでなく、全校の保護者みんなを対象に募集し、「軽度発達障害」についての理解者を増やしてはどうか？軽度発達障害の子どもへのよい対応は、すべての子どもへの望ましい対応につながるんだから・・・

## 学習会のお誘い

※この事例ではLD・ADHD・高機能自閉症等を軽度発達障害と表現しています。

### 軽度発達障害学習会のお誘い

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| なかなか宿題に取り掛かれない。 | 忘れ物が多い。             |
| 身の回りのことに時間がかかる。 | ひらがなや漢字がなかなか覚えられない。 |
| 字がきれいに書けない。     | 友だちや兄弟とのトラブルが多い。    |
| 叱られることばかりする。    | 口ごたえばかりする。          |
|                 | 等々                  |

親の思うようにはなかなかやってくれない子どもにイライラすることがあるかと思います。子どもの背景にあること、対応の仕方等を一緒に考えていきたいと思っています。軽度発達障害と言うと「えっ障害…」と抵抗を感じるかも知れませんが、その特徴を見るとどの人もこれは自分にも当てはまるなあと思う部分をもっていると思います。自分も含めどんな所が得意でどんな所が苦手なのか。その原因は何なのか。どのように周りの環境を整えたらいいのか。子どもたち自身にどんな力を付けていけばいいのか等を考え合うような勉強会にしたいと思います。

軽度発達障害のお子さんへの対応は、すべてのお子さんへの対応にも大変参考になると思います。是非、お気軽にご参加ください。

#### 学習会の予定

- ◎ADHD・LD・高機能自閉症等、軽度発達障害って何？
- ◎どうしてうまくいかないの？LDやADHDの擬似体験をしてみよう
- ◎「どうせ私なんて」と思わせないために、どのように子どもにかかわっていけばいいの？
- ◎学校で軽度発達障害の子どもはどのように過ごしているの？
- ◎その他、皆さんが興味のあること、考えたいこと、希望のある内容を考えていきたいと思っています。

校長先生の助言から、お誘いの案内を全校に配布すると、何と20名程の参加希望者がありました。また、校長先生や教頭先生、そして担任の先生方も保護者の方々と一緒に参加してくれました。オノ先生はとてもうれしく思い、一生懸命学習会の準備をし、充実した会になるように努めました。オノ先生は次のような点に留意して、学習会を行いました。

## 学習会の工夫

- 1 学習会をするならきちんと理解していただきたいということで、2時間×3回で1シリーズとなるように計画しました。
- 2 理解しやすいように、プレゼンテーションソフトを利用し、配付資料を用意して、メモは最低限で済むようにしました。
- 3 第1・2集にあるチェックリストを学習会の中で実施し、自分の中にも軽度発達障害の行動の特徴と似ているところがあることを実感してもらえるようにしました。
- 4 子どもの困っている所がわかりやすいように、できるだけ具体的な事例でお話しし、実際に行った支援方法を紹介しました。
- 5 LD等の心理的疑似体験を行うことで、子どもの困っている気持ちに心を寄せてもらえるようにしました。
- 6 軽度発達障害の理解が中心ですが、「褒めて育てること」「セルフエスティームを高めることはすべての子どもにとって大切」「子どものちょっとしたよさに気づける自分になるう」という視点で話をしました。軽度発達障害の子どもに対する支援は、どの子にも大切な支援だという視点で話をしました。
- 7 研修に来る皆さんは、軽度発達障害について詳しい方、全く知識のない方と様々です。毎回アンケートを実施し、説明の不十分な部分や関心のあるところをチェックして、次の会に生かすようにしました。

## ナミさんのお母さんの感想

今までナミに「早く早く」「頑張りなさい」と声をかけることが多かったのですが、「早く」と言われるほど焦ってしまったり、頑張ってもできないことを「頑張り」と声をかけられても苦しかったりすることがわかりました。



## 参加者からの感想！

学習会に参加して、今まで知らなかった軽度発達障害について知ることができました。また、軽度発達障害への対応の仕方は普段の子育てに通じることだと思いました。これからの子育てにいかしていきたいと思います。

## コラム 学習会の必要性は分かるけどちょっとという人に

近くで開かれる学習会に誘ってみようよ・・・

講師は、近くの学校の先生に頼ってみようか

親の会と協力してヤスシさんの主治医のタナカ先生にお願いしてみるか

スクールカウンセラーのカラサワ先生に講師をお願いするか

同じ市町村内の幼稚園・保育園・小・中学校と一緒に学習会を企画しよう・・・

## 事例から学ぶ

決してあきらめないことです。本事例では校長先生に相談をしていますが、誰かに相談することで、背中を押してもらえるものです。

自分の力でできるやり方は必ず見つかります。自分でできなければ人に頼むもよし、大がかりにしなくてもちょっとした会を企画するだけでも有効です。少しずつ理解者を増やしていこうと考え、できることから取り組んでみましょう。